

ていきます。これが塗り壁との大きな違いです。つまり、美しいものと綺麗なものとの違いです。美しいものとは、目・耳・心にうつとりさせる感じで訴えてくるものであり、綺麗なものとは見た目がきらびやかではで美しい様子をいますがすぐに飽きが来ます。塗り壁の美しさは永遠に続きます。子どもにとって塗り壁の美しさや優しさは心を感じると思います。塗り壁の下地は耐久性に配慮しプラスターボードとラスボードの二重張りで施工しています。

三つ目の特徴は内部の建具のデザインにあります。

建具は、閉（た）てる具の意で、可動の戸と建具枠で構成され建築の開口部を開閉するものの総称です。現在は戸と建具枠が一組となって工業生産された規格品が一般的ですが、この木製建具は全てそれぞれ異なる意匠の設計で、建具職の手作りによって制作しています。

二の部屋と廊下との仕切りは、三角と四角の幾何学模様の細かい障子の組子で、ワロン紙を用いてカラフルにデザインしています。障子紙を通して柔らかな光を入

れ、間接照明と共に明かりの変化を楽しむことが出来ます。三本引きの軽い障子なので取り外しは簡単で、障子を閉めている時は15帖ほどの広さですが障子を外すと25帖の広さになります。

鴨居の上部の丸い欄間はヨシを透かしたデザインで、部屋と廊下が一体的な空間として設計しています。

二の部屋と三の部屋の仕切りも同様のデザインです。尚、三の部屋と廊下との仕切りは引違いの板戸で、縦横に細かい棧を両面に入れて杉板を挟み込んだ木製建具です。和室の部屋の落着きを意図したデザインです。

一の部屋の建具も意匠を凝らしています。上げ下げサッシを覆った六か所の上げ下げ障子は幾何学模様の組子で障子紙から柔らかな光を入れています。障子の上部の組子は十字架を現わしています。

便所の開き戸は両面舞良子の杉板戸、厨房の引き戸は木連れ格子の杉板戸の制作です。

三つの部屋の出入り口はドアを用いず全て引違いの障子又は板戸にしています。それは各部屋を閉ざすのではなく、軽い仕切りを用いることによって各部屋が開